

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| 受理番号      | 学 校        | 教 科          | 種 目   | 学 年 |
|-----------|------------|--------------|-------|-----|
| 106-224   | 高等学校       | 国語科          | 現代の国語 |     |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号  | 教科書名         |       |     |
| 15 三省堂    | 現国 015-901 | 精選 現代の国語 改訂版 |       |     |

## 1. 編修の基本方針

### 言葉を学ぶ。言葉で生きる。

#### 主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

#### 対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

#### 深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、中学校の国語学習の到達点を意識し、高等学校の国語学習が円滑にスタートできるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え的確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に

向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

**② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。**

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉をとおして現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動をとおして、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もっとも基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

**③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。**

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、「話す」「書く」領域における表現活動と、「聞く」「読む」領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解の学びに独自の学習の場を設定することで、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むの全ての領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。その際、これまでの内向的な学びの傾向への反省から、自分の意見や考えを積極的に発信することで、他者ととともにする協働的な活動をとおして、開かれた個性の育成、広範な教養の育成を目指しました。

**④ 国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。**

社会生活に必要とされる知識・技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動をとおして社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、多様なジャンルやテーマの文章をバランスよく配置するとともに、必要に応じて複数の文章を比較させるなど、多角的に考えさせる学習課題についても格別の配慮をしました。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容             | 特に意を用いた点や特色                                                                                                        | 該当箇所    |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| ぐうぜん、うたがう、<br>読書のススメ | 読書の原体験について述べた文章をとおして、読書の効用について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。                                            | 10～16   |
| 〈対話の場〉としての図書館        | 本や他者と対話する意義を論じた文章をとおして、図書館の役割と公共性について考え、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。                        | 17～21   |
| 水の東西                 | 水の扱いを例に東西文化の違いを論じた文章とおして、比較という方法で文化について考え、伝統と文化を尊重する態度を養うことを目指した（第五号）。                                             | 30～35   |
| 無彩の色                 | 色彩に着目して文化を論じた文章をとおして、日本文化の特徴について考え、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操を培うことを目指した（第一号）。                                             | 36～41   |
| ポスト真実時代のジャーナリズム      | 社会とメディアの関係を論じた文章をとおして、ジャーナリズムの役割について考え、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。                         | 50～56   |
| SNSで暴れるナラティブ         | ナラティブについて論じた文章をとおして、現代SNS社会の課題について考え、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。                           | 57～65   |
| ものごとば                | ものごとばの関係について論じた文章をとおして、言葉のはたらきについて考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。                                        | 74～81   |
| 語彙力を鍛える              | 用例について論じた文章をとおして、語句の意味や用法について考え、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。                               | 82～89   |
| 贈り物と商品の違い            | モノを介したコミュニケーションのあり方を論じた文章をとおして、人間や社会について考えを深め、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。                 | 96～104  |
| 経済の論理／環境の倫理          | 経済学の視点から環境問題を論じた文章をとおして、経済の論理について考えを深め、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。                        | 105～111 |
| ありのままの世界は見えない        | 見えるものが人によって異なることを述べた文章をとおして、「見る」とはどのようなことか考え、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。 | 124～129 |
| 「多様性」という言葉への違和感      | 「多様性」について論じた文章をとおして、そのあり方について考え、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。              | 130～136 |

|                                 |                                                                                                                                          |                                             |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 人がアンドロイドとして甦る未来<br>——アンドロイド基本原則 | アンドロイドに対する基本原則を多角的に論じた文章をとおり、アンドロイドの登場がもたらす問題を考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。                                                  | 142～151                                     |
| 人間にできて機械にできないこと                 | AI など機械の認識と人間の認識の違いを論じた文章をとおり、その違いについて考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。                                                          | 152～157                                     |
| 木の葉と光                           | 動物の「環世界」について論じた文章をとおり、環境問題を捉える視点について考えを深め、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。                                                      | 168～176                                     |
| 自然をめぐる合意の設計                     | 自然と人間の関係について論じた文章をとおり、自然をめぐる合意形成について考えを深め、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。                                                      | 177～181                                     |
| ポストコロナの生命哲学                     | ピシウスとロゴスの概念を用いてポストコロナの生命哲学を論じた文章をとおり、新しい時代の生命哲学について考え、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第四号）。                                                            | 192～198                                     |
| ヒトゲノム研究に関する基本原則                 | 「ヒトゲノムの意義」の解説文をとおり、人にとってのゲノムの意味を考え、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第四号）。                                                                               | 199～202                                     |
| 命は誰のものなのか                       | 安楽死をめぐるさまざまな議論を紹介した文章をとおり、「生命の尊さ」について考えを深め、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第四号）。                                                                       | 203～207                                     |
| 異なる文化との出会い                      | 思考・価値観・世界観の多面構造を論じた文章をとおり、異文化理解について考えを深め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。                                                        | 216～221                                     |
| 共生社会で求められる<br>「相対的よそ者」の視点       | 「相対的よそ者」という見方について論じた文章をとおり、共生社会について考えを深め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。                                                        | 222～226                                     |
| グローバリゼーションの光と影                  | グローバリゼーションとナショナリズムの関係について論じた文章をとおり、現代社会の課題について考えを深め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。                                             | 227～231                                     |
| なぜ私たちは労働するのか                    | 現代の若者の労働についての文章をとおり、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。                                                                                            | 261～263                                     |
| ブックガイド                          | 「幅広い知識と教養」「真理の探求」「豊かな情操と道徳心」「自律と勤労」「自他の敬愛と協力」「生命や自然」「伝統と文化」「国際社会の平和」などを尊重し涵養するための読書活動を推進することを意図して、各単元で図書をテーマ別に紹介した（第一号、第二号、第三号、第四号、第五号）。 | 28,48,72,94,<br>122,140,166,<br>190,214,238 |

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### 全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

#### カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

#### 環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています。
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

#### その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)

| 受理番号      | 学 校        | 教 科          | 種 目   | 学 年 |
|-----------|------------|--------------|-------|-----|
| 106-224   | 高等学校       | 国語科          | 現代の国語 |     |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号  | 教科書名         |       |     |
| 15 三省堂    | 現国 015-901 | 精選 現代の国語 改訂版 |       |     |

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### (1) 教材選定と作成の基本方針

- 1 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、日常生活における言語活動の活発化をはかり、  
基礎・基本の充実を目指した教材

教材の選定、教材化にあたっては、中学校国語科における学習の成果をふまえて、高校生として望ましい国語の力を身につけ、日常生活における言語活動を活発化できるよう、発達段階にふさわしい基本的なものを選びました。特に冒頭の単元に関しては、入門期であることをふまえ、興味をもって学習し、いっそうの発展が期待できるよう、特別に工夫を凝こしました。

- 2 生徒の思考力や論理性の育成に寄与し、現代社会の問題を主体的に考えることができる、  
客観的価値の高い教材

現代に生きる人間として、生徒たちが自らの思考力・判断力・表現力を高め、さまざまな角度から問題を取り上げ、ことがらを論理的に把握し、人生、社会、言語について考えを深めることができる教材を精選しました。

- 3 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、共感をもって言語活動にとりくむことのできる教材

人間の普遍的な姿や、思考・思想を表現した作品の教材化により、生徒の思考力と想像力を刺激し、共感をもって言語活動にとりくむことのできる作品を選びました。

- 4 読書に親しみ、知識と教養を身につけることのできる教材

幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うため、読書に親しみ、その意義と効用を考える契機となるような作品を選び、教材化を図りました。

- 5 バランスよく配置された、定評ある教材と現代的話題の教材

教材の選定は、従来から教材化されて定評のある作品を基軸としつつ、現代的話題に満ちた清新な作品を教材化して、生徒の興味を喚起できるように配置しました。

- 6 多様な言語活動に即した、具体的、実践的な教材

日常生活において、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選しました。スピーチや討論、調査や報告、小論文など、多様な表現活動の場に即した、社会生活につながる実用性に富んだ言語活動を、体系的に段階を追って配しました。その際、そうした活動を支えるための、情報収集、コンピュータや情報通信ネットワークの活用にも配慮して総合的な学習ができるよう工夫しています。単に文例や模範文を示すのではなく、言語活動の具体的な展開を教室での実践に即した形で提示することによって、生徒が主体的に言語学習に取り組めるようにしました。

### (2) 構成と配列の基本方針

言葉による見方・考え方をはたらかせ、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、言語活動をとおして育成するため、一つ一つの教材の価値を大切に、体系的な知識の習得と生徒の自発的・継続的な学習の流れを保証するよう、この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

## 1 全体の構成

教材の精選を図るとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「知識及び技能」を相互に関連させた1から10の単元と、さまざまな言語活動で活用するための「資料編」で構成されています。言語活動をとおりて言葉の力を身につけることができるよう、生徒の学校生活、日常生活に即した言語活動の充実を図りました。実用性に富んだ活動例を精選し、単に文例や模範文を示すのではなく、言語活動の具体的な展開を教室の実践に即した形で提示することによって、生徒が自らの考えをもち、価値観を育みつつ、創造的に共感をもって考えたり、主体的に表現したりすることができるようにしました。

## 2 単元の構成

それぞれの単元は、扉に単元の言語活動と学習目標、各教材での学習事項を提示するとともに、単元末に「単元の振り返り」を設定し、自ら学習を振り返る機会を設けています。言語活動をとおりて身につけた力を自分で確認し、次の学習に生かすことができるような仕組みを目指しました。

また、それぞれの単元での学習の流れは、各単元の「学びを広げる」に設定した言語活動が、円滑に展開できるよう工夫しました。各教材に設定した「脚問」と「課題A」「課題B」を「学びを広げる」の言語活動と有機的に関連づけ、学習の重層化を図りました。各教材を密接に関連させながら学習することで、総合的な言語能力を身につけられるように配慮しました。

## 3 「知識及び技能」について

「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」、および「言語文化に関する事項」について、生徒の関心を広げ、国語の特質に対する理解を深めるために、さまざまな工夫をこらしました。各単元の言語活動については、音声、文字、情報、それぞれに即した注意点を具体的に示しました。

また、各単元には教材に関連する書籍を紹介する「ブックガイド」を設け、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めるようにしました。さらに、それぞれの教材に「脚注」「脚問」「語彙と漢字」の取り立てなどによる、言葉の体系的学習指導を目指すなど、総合的な国語の運用能力の向上を図るため、特に配慮してあります。

## 4 学習指導についての配慮

学習指導への配慮から、各教材の下段の注欄には、次の項目を設けました。

- ①脚注……固有名詞や難解な語句、理解の必要な言葉などを解説しました。
- ②脚問……内容理解の手がかりになる箇所に簡単な問いを掲げました。脚問は教材末尾の「課題A・B」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることをないように配慮しました。
- ③語句……意味や用法に注意して身につけておきたい語句を抜き出して示しました。

また、各教材の末尾には、次の項目を設けました。

- ①課題A……文章の内容や構成を理解するための学習課題を示しました。
- ②課題B……文章の理解をより深めるため、主体的・対話的に取り組める学習課題を示しました。
- ③語彙と漢字……語彙の拡充と漢字の習得のため、文章中の語句や表現に着目した問いと、注意すべき漢字の練習問題を示しました。

さらに、各単元には、次の項目を設けました。

- ①学びを広げる……主体的・対話的に学びを深められる言語活動を設定しました。
- ②単元の振り返り……単元の学習を振り返って確認し、次の学習に生かせるよう、学習目標に対応した振り返りを設けました。
- ③ブックガイド……読書に親しみ、読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介しました。
- ④二次元コード……単元扉や教材の冒頭などに付した二次元コードから、学習に役立つさまざまな資料が閲覧できるようにしました。

## 5 用字・用語・表記について

- ①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。
- ②常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。
- ③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。
- ④仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとししました。振り仮名も同様です。
- ⑤外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

## 6 挿絵・写真・図版などについて

教材の読解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

## 7 「資料編」について

「資料編」には、学習活動を多様に展開するための資料となるもの、また、学習者が主体的に自らの学びを広げていくために参考となる以下の資料を収録しました。

- ・現代評論キーワード集 1 対話・言語・思考／2 文化・多文化共生／3 情報・経済・科学技術／4 自然・環境・生命
- ・表現の技法 1 調査・情報収集／2 引用／3 要約／4 比較／5 論理構成／6 接続／7 推論／8 推敲
- ・「書くこと」のレッスン 新聞投書／課題文型小論文
- ・手紙・メールの形式／話し合いの形式
- ・高等学校で学習する音訓のある常用漢字一覧／常用漢字表 付表
- ・実用的文章の形式／小論文のための方略

さらに、各資料に付した二次元コードから、関連する豊富な情報を閲覧できるようにしました。この「資料編」の活用により、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言葉の生活が豊かになっていくことが期待されます。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容（教材名）                                                                                                                         | 学習指導要領の内容                                                                                          | 該当箇所                             | 配当<br>時数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----------|
| <b>1 知らないものに出会う</b><br>ぐうぜん、うたがう、読書のススメ 川上未映子<br>〈対話の場〉としての図書館 鷲田清一<br>学びを広げる “この一冊、を伝え合おう”<br>参考 対談 言葉の功罪 ―本から広がる世界―<br>小泉今日子 × 江國香織 | ●話す・聞く ア 話題の設定・情報の収集・内容の検討／ウ 音声表現の工夫・資料や機器の活用<br>[言語活動] イ スピーチ／エ 発表<br>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙<br>◆言語文化 ア 読書 | 10～16<br>17～21<br>22～23<br>24～27 | 6        |
| <b>2 文化を見つめる</b><br>水の東西 山崎正和<br>無彩の色 港千尋<br>学びを広げる 身近な日本文化を紹介しよう<br>参考 相手のことを考える<br>―日本のお祭りはどういうものですか？―<br>野矢茂樹                      | ●書く イ 構成や展開の工夫<br>[言語活動] イ 紹介文<br>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙／オ 文章の組み立て／カ 表現の技法                                  | 30～35<br>36～41<br>42～43<br>44～47 | 8        |

|                                        |       |                                                                                                  |                                          |   |
|----------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|---|
| <b>3 情報社会を生きる</b>                      |       | ●読む イ 内容や書き手の意図の解釈・構成や展開の評価・考えの形成<br>[言語活動] イ 図表等の読解<br>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙<br>◆情報 ア 主張と論拠の関係          | 50～56<br>57～65<br>66～68<br>69～71         | 6 |
| ポスト真実時代のジャーナリズム                        | 国谷裕子  |                                                                                                  |                                          |   |
| SNSで暴れるナラティブ                           | 大治朋子  |                                                                                                  |                                          |   |
| 学びを広げる 情報社会について考えよう                    |       |                                                                                                  |                                          |   |
| 参考 ネットが崩す公私の境                          | 黒崎政男  |                                                                                                  |                                          |   |
| <b>4 言葉と向き合う</b>                       |       | ●書く ア 題材の設定・情報の吟味・内容の明確化<br>[言語活動] ウ 調査報告<br>◆言葉 ア 言葉のはたらき／ウ 漢字／エ 語彙                             | 74～81<br>82～89<br>90<br>91～93            | 6 |
| ものごと                                   | 鈴木孝夫  |                                                                                                  |                                          |   |
| 語彙力を鍛える                                | 石黒圭   |                                                                                                  |                                          |   |
| 学びを広げる オリジナル辞書を作ろう                     |       |                                                                                                  |                                          |   |
| 参考 辞書は生きている                            | 飯間浩明  |                                                                                                  |                                          |   |
| <b>5 経済から世界を捉える</b>                    |       | ●話す・聞く エ 展開の予想・情報の整理・考えの形成／オ 話し合いの仕方や結論の出し方の工夫<br>[言語活動] ウ 話し合い<br>◆言葉 イ 話し言葉の特徴／ウ 漢字／エ 語彙       | 96～104<br>105～111<br>112～118<br>119～121  | 6 |
| 贈り物と商品の違い                              | 松村圭一郎 |                                                                                                  |                                          |   |
| 経済の論理／環境の倫理                            | 岩井克人  |                                                                                                  |                                          |   |
| 学びを広げる ワールド・カフェを開催しよう                  |       |                                                                                                  |                                          |   |
| 参考 「自己責任」の落とし穴                         | 斎藤幸平  |                                                                                                  |                                          |   |
| <b>6 思考の枠組みを広げる</b>                    |       | ●読む ア 内容や構成の把握・要旨や要点的把握<br>[言語活動] ア 論述（意見文）<br>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙<br>◆情報 イ 個別の情報と一般化された情報との関係         | 124～129<br>130～136<br>137<br>138～139     | 8 |
| ありのままの世界は見えない                          | 田中真知  |                                                                                                  |                                          |   |
| 「多様性」という言葉への違和感                        | 伊藤亜紗  |                                                                                                  |                                          |   |
| 学びを広げる 相互理解を深めるために、今何が必要か考えよう          |       |                                                                                                  |                                          |   |
| 参考 「見える文化」／「見えない文化」                    | 原沢伊都夫 |                                                                                                  |                                          |   |
| <b>7 科学技術を問い直す</b>                     |       | ●書く ウ 根拠の示し方の検討・表現の仕方の工夫<br>[言語活動] ウ レポート<br>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙<br>◆情報 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味／オ 引用の仕方        | 142～151<br>152～157<br>158～161<br>162～165 | 8 |
| 人がアンドロイドとして甦る未来——アンドロイド基本原則            | 谷島貫太  |                                                                                                  |                                          |   |
| 人間にできて機械にできないこと                        | 松田雄馬  |                                                                                                  |                                          |   |
| 学びを広げる 調べたことをレポートにまとめよう                |       |                                                                                                  |                                          |   |
| 参考 インタビュー AIと私たち——国連大学学長チリツィ・マルワラさんに聞く |       |                                                                                                  |                                          |   |
| <b>8 自然とともに生きる</b>                     |       | ●話す・聞く イ 立場や考えの明確化・構成や展開の工夫／エ 展開の予想・情報の整理・考えの形成<br>[言語活動] ア スピーチ<br>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙<br>◆情報 ウ 推論の仕方 | 168～176<br>177～181<br>182～185<br>186～189 | 8 |
| 木の葉と光                                  | 日高敏隆  |                                                                                                  |                                          |   |
| 自然をめぐる合意の設計                            | 関礼子   |                                                                                                  |                                          |   |
| 学びを広げる マイクロディベートをやってみよう                |       |                                                                                                  |                                          |   |
| 参考 ヒグマとどう共生するか——『北海道新聞』二〇一九年十二月四日の記事より |       |                                                                                                  |                                          |   |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                         |           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <p>9 生命について考える</p> <p>ポストコロナの生命哲学 福岡伸一</p> <p>ヒトゲノム研究に関する基本原則<br/>科学技術会議生命倫理委員会</p> <p>命は誰のものなのか 柳澤桂子</p> <p>学びを広げる 小論文を書こう</p> <p>参考 我々はどこから来たのか、我々は何者か、<br/>我々はどこへ行くのか<br/>——古代ゲノム研究の意義 篠田謙一</p>                                                                                                                                                                                  | <p>●書く ア 題材の設定・情報の吟味・内容の明確化／エ 推敲・自分の文章の長や課題の把握</p> <p>[言語活動] ア 小論文</p> <p>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙</p> <p>◆情報 ウ 推論の仕方／エ 情報の妥当性や信頼性の吟味</p> | <p>192～198</p> <p>199～202</p> <p>203～207</p> <p>208～209</p> <p>210～213</p>                                                                                                              | <p>8</p>  |
| <p>10 多文化共生社会を創る</p> <p>異なる文化との出会い 中村隆文</p> <p>共生社会で求められる「相対的よそ者」の視点<br/>森千香子</p> <p>グローバリゼーションの光と影 小熊英二</p> <p>学びを広げる ポスターセッションで発表しよう</p> <p>参考 ガンベリ砂漠を目指せ<br/>——緑の大地をつくる 中村哲</p>                                                                                                                                                                                                  | <p>●読む イ 内容や書き手の意図の解釈・構成や展開の評価・考えの形成</p> <p>[言語活動] イ 発表（書き換え）</p> <p>◆言葉 ウ 漢字／エ 語彙</p> <p>◆情報 ア 主張と論拠の関係</p>                   | <p>216～221</p> <p>222～226</p> <p>227～231</p> <p>232～233</p> <p>234～237</p>                                                                                                              | <p>6</p>  |
| <p>ブックガイド</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>◆言語文化 ア 読書</p>                                                                                                              | <p>28,48,72,94,<br/>122,140,166,<br/>190,214,238</p>                                                                                                                                    | <p>適宜</p> |
| <p>論理的文章の基本構造</p> <p>実用的文章の特徴</p> <p>資料編</p> <p>現代評論キーワード集</p> <p>1 対話・言語・思考／2 文化・多文化共生／<br/>3 情報・経済・科学技術／4 自然・環境・生命</p> <p>表現の技法</p> <p>1 調査・情報収集／2 引用／3 要約／4 比較／<br/>5 論理構成／6 接続／7 推論／8 推敲</p> <p>「書くこと」のレッスン</p> <p>新聞投書</p> <p>課題文型小論文</p> <p>なぜ私たちは労働するのか 内田樹</p> <p>手紙・メールの形式</p> <p>話し合いの形式</p> <p>高等学校で学習する音訓のある常用漢字一覧</p> <p>常用漢字表 付表</p> <p>実用的文章の形式</p> <p>小論文のための方略</p> | <p>◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識を整理して示し、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度の育成を図っている。</p>                                                           | <p>巻頭〈1〉～〈2〉</p> <p>巻頭〈3〉～〈4〉</p> <p>240～247</p> <p>248～257</p> <p>258～260</p> <p>261～265</p> <p>266～267</p> <p>268～269</p> <p>270～271</p> <p>272</p> <p>巻末(1)～(2)</p> <p>巻末(3)～(4)</p> | <p>適宜</p> |
| 計                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                         | 70        |